

# 第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年9月30日(金) 5校時  
 児 童 男16名 女7名 計23名  
 授業者 木村 賢一

- 1 単元名 和の文化について調べ、よさについてプレゼンテーションしよう  
 教材名 「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」(東京書籍 5年)

## 2 単元の目標

- 和の文化について関心を持ち、調べて説明するという目的を意識して文章を読もうとしている。 【関心・意欲・態度】
- 目的に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた言葉遣いで話すこと。 【話す・聞く イ】
- 観点や構成に着目して内容を的確に押さえて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。 【読むこと ウ】
- 目的に応じて、複数の本や文章を選んで比べて読むこと。 【読むこと カ】
- 文章のいろいろな構成について理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(キ)】

## 3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○和の文化について関心を持ち、調べて説明するという目的を意識して文章を読もうとしている。	○目的に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた言葉遣いで話している。 (イ)	○観点や構成に着目して内容を的確に押さえて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらか読んでいる。 (ウ) ◎目的に応じて、複数の本や文章を選んで比べて読んでいる。 (カ)	○文章のいろいろな構成について理解している。 イ(キ)

## 4 言語活動とその特徴

本単元では、「A話すこと・聞くこと」の(1)イ「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」および、「C読むこと」の(1)カ「目的に応じて、複数の本や文章を選んで比べて読むこと。」を重点指導事項としている。そのために、第3次に「和の文化のよさを伝えるために、プレゼンテーションを行う」活動を位置付け、言語活動を設定する。

具体的には、第3次のプレゼンテーションの活動において、伝える内容の観点が明確であるか、資料や写真、グラフ等の資料を用いて説得力のある発表になっているか、の2点について発表者側と聞き手側に交流させる。これらの言語活動を通して、自分の思いや考えを伝えるための方法や聞き手をひきつけるプレゼンテーションのあり方について、身につけさせたいと考える。

## 5 単元について

### (1) 児童について

児童は、1学期に「動物の体と気候」の学習を通して、段落ごとの要点をとらえたり、文章の構成を考えたりする学習を行った。また、「世界でいちばんやかましい音」の学習では、物語の山場の前後で変化する登場人物や主人公の心情について学んできた。

授業における児童の様子は、意欲的に自分の考えを発言しようとする姿が男子、女子ともに見られ、学習に対して前向きに取り組んでいる児童が多い。

これまで、グループで考えたり個で考えたりする活動をしてきた結果、自分なりに何とか結論を出そうとしている様子も見られる。ただ、自分の考えを適切に言葉や文章表現を使ってまとめたり、自分の思いや考えを友達に伝えたりする活動に関しては個人差が見られる。

そこで、本単元では、教材文の中で使われている年表や写真のよさについて触れ、文章だけではなく年表や写真にも筆者の思いや考えが込められていることを全体で捉えていく。そして、児童が年表や写真を効果的に用いながら、和の文化のよさについてプレゼンテーション活動を行うことにより、自分の思いや考えを伝える力をつけていきたい。

### (2) 教材について

本教材文は、和の伝統文化の中でも和菓子についてとりあげ、児童が興味・関心を持ち続けながら、和菓子の歴史や人とのかかわりについて読み進められるよう、筆者の考えが論理的に展開されている。文章は、序論、本論、結論と明確な構成になっていて、児童にとって文章構成をとらえやすく、理解しやすい教材文であると考え。また、文章量もさほど多くはなく、児童が抵抗なく、内容を把握しながら読み進められる教材文でもあると考え。さらに、年表や写真などが効果的に用いられている。

よって、単元最後に行うプレゼンテーション活動の際、資料を効果的に活用しながら自分の思いや考えを伝える力を身につけるのにふさわしい教材である。

### (3) 指導にあたって

第一次では、今後の学習の見通しを立てることにより、児童に単元全体を通した学習活動の概要をつかませる。また、1学期に学習した説明文教材の要旨をまとめた活動を想起させる。そうすることにより、児童は学習活動を進めていく中で、次の課題の解決を図るために教材文を熟読し、教師からの指示がなくても自ら思考するであろうと考える。

第二次では、まず、4年生で学習した「くらしの中の和と洋」を振り返らせ、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」と比較させる。そして、書き方が同じであることを確認してから、教材文を序論（問題提示）、本論（内容）、結論（まとめ）の3つに分け、説明文の典型的な型について確認する。そして、本論については、年表や写真等の効果にも目を向けさせるようにし、それが筆者が読み手に伝えたいことであることを捉えさせたい。

第三次では、和の文化のよさを伝えるためのプレゼンテーション活動を行う。まずは、児童の興味・関心に基づいて小グループを作り、思いや願いがより伝わるような情報、資料収集を行う。次に、伝えたい内容に合う情報、資料の取捨選択、加工を行い、プレゼンテーション原稿の作成をする。その時には、必要に応じて教材文を振り返らせ、思いや考えを伝えるための効果的な図表・写真の提示の仕方や構成の仕方を確認しながら原稿作成をさせていきたい。

6 指導計画（全13時間）

段階	時間	主な学習活動	評価規準
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書P143の写真や文章から、教材文の内容について想像する。</li> <li>教科書を読み、学習の見通し（和の文化についてプレゼンテーション活動）を立てる。</li> </ul>	<b>【関】</b> 教材文の内容に関心を持ち、今後の学習の見通しを持って、進んで学習に取り組もうとしている。 （行動観察、発言）
		和の文化について調べ、よさについてプレゼンテーションしよう。	
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年生の時に学習した「くらしの中の和と洋」を振り返る。</li> <li>教科書の文章構成図を手がかりに、序論・本論・結論の構成を確かめる。</li> <li>内容をもとに、本論を3つに分ける。</li> </ul>	<b>【読】</b> 教材文の構成をとらえ、序論、本論、結論の内容を読み取っている。 （ノート、発言）
	3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>本論1～3を読み、年表や写真のよさについて考える。</li> </ul>	<b>【読】</b> 年表や写真のよさを理解している。 （ノート、発言）
	4  5	<ul style="list-style-type: none"> <li>本論1～3を読み、年表や写真と関連付けながら、書かれている内容を読み取る。</li> </ul>	<b>【読】</b> 年表や写真と関連付けながら、内容を読み取っている。 （ノート、発言）
第三次	6  7  8	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が伝えたい和の文化のよさについての情報を収集する。</li> </ul>	<b>【話・聞】</b> 集めた情報を整理して、必要な情報を選んだり組み合わせたりして、説明する内容を考えている。 （行動観察、ノート）
	9  10  11	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を観点ごとに整理し、必要に応じて複数の情報を加工し、内容や文章構成を考える。</li> <li>内容や目的に合わせて、資料の形式を工夫する。</li> </ul>	<b>【話・聞】</b> 事柄が明確に伝わるように、説明の構成を工夫している。 （原稿、発表、ノート）
	12  13	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表練習をし、録画をする。</li> <li>録画内容を確認し、説得力のある伝え方になっているか確認する。</li> <li>内容変更したグループは、もう一度録画する。</li> <li>プレゼンテーションを全員で見て、交流する。</li> </ul>	<b>【話・聞】</b> 自分の考えと比べたり、構成や資料の使い方に注意して聞いたりして、自分の考えをまとめている。 （発言、ノート）

7 本時の指導（3／13）

（1）目標

本論1～3を読み、年表や写真のよさを読み取る。

手立て①「ねらいを明確にした交流の位置付け」

- 【ねらい】 → 友達の考えと自分の考えを比較しながら聞き、考えを深める。
- 【方向性】 → 互いに考えを述べあい、それぞれの考えと年表や写真を照らし合わせ、妥当性を検討する。
- 【子どもの状態】 → 考えを持っていても、他の児童の考えと違うことが不安だったり、間違いであると判断したりして、自信を持って発表出来ない児童もいる。
- 【形態】 → 3，4人グループで交流後、全体で交流する。  
(グループで話し合いをし、児童一人ひとりの意見を出し合うことにより、グループの意見をまとめる。その後、全体で交流し、グループごとに意見を出し合うことにより、全体の意見としてまとめる。)

手立て②「子どもが交流のよさを実感できるような振り返りの位置付け」

年表や写真のよさについて、次の視点で振り返らせる。

- ア グループや全体で交流してみて、自分の考えが変わったか、変わらないか。変わった場合、どのように変わったか。
- イ 今日の学習で何が分かったか。

（2）展開

段階	主な学習活動	予想される児童の考え	指導上の留意点
導入 5分	1 前時までの学習を想起する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習の流れを掲示しておく。</li> <li>・前時の学習を振り返る。</li> </ul>
	2 学習課題をつかむ 年表や写真のよさを考えよう。		

段階	主な学習活動	予想される児童の考え	指導上の留意点
展開 30分	3 年表や写真のよさについて隣同士で交流する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、何が出来たか分かる。</li> <li>・分かりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日の家庭学習で自分なりに考えてきた年表、写真のよさを互いに発表し合う。</li> </ul>
	4 本論1～3にある年表、写真のよさを探す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代が分かる。</li> <li>・変化が分かる。</li> <li>・一目でわかる。</li> <li>・様子が分かる。</li> <li>・季節が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導をし、個別に支援が必要な児童には、教材文の内容と写真を対比させながら考えさせる。</li> </ul>
	5 グループで互いの意見を交流する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の流れとともに和菓子がどのように変化していったのか分かる。</li> <li>・色、形、大きさ等が分かる。</li> <li>・自分の経験を振り返って考えられる。</li> <li>・行事とのつながりが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの意見を交流し、教材文と意見を比較しながら、最終的な自分の考えを持たせる。</li> </ul>
	6 全体で交流し、年表や写真のよさを確認する		
終末 10分	5 本時のまとめをする		<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめをノートに書かせる。</li> <li>・机間指導をし、個別に支援をする。</li> </ul>
	6 学習をふり返し、次時の学習の確認をする	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>年表は、時代の変化とともに何が変化したかが分かり、写真や画像は、実際の様子や色、形、大きさなどが分かる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習を振り返り交流する。</li> <li>・次時は、本論1～3の内容を読み、まとめることを伝える。</li> </ul>

(3) 本時の評価の観点と評価規準

評価の観点	評価規準	概ね満足できる状況	支援を必要とする児童への手立て
年表や写真から、または、年表や写真と教材文を関連付けながら、年表や写真のよさについて考えているか。		年表や写真が持つそれぞれの特徴を考えながら、よさを見つけていることが出来る。	文章や説明ではなかなか伝わらないが、年表や写真だとよく伝わるものは何か考えさせるようにする。

(4) 板書計画

